

## 実験集合住宅「NEXT21」504住戸の改修完了と新しい居住実験開始のお知らせ

2026年2月19日

大阪ガス株式会社

大阪ガス株式会社(社長：藤原正隆、以下「大阪ガス」)は、2024年6月に概要を発表しておりました実験集合住宅「NEXT21」504住戸の改修を完了しましたのでお知らせします。

(2024年6月14日：[大阪ガス実験集合住宅「NEXT21」504住戸改修の概要発表](#))

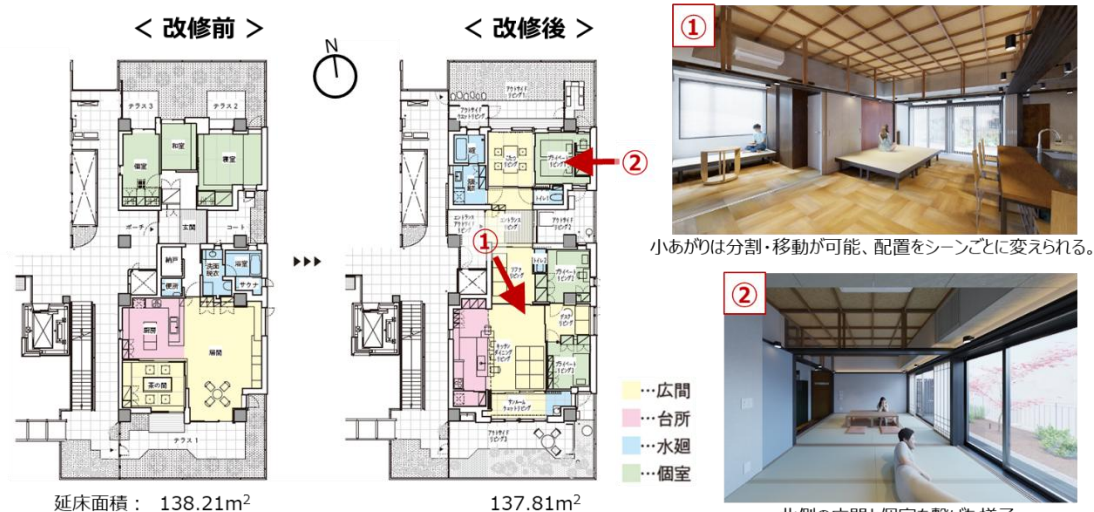
「NEXT21」は、近未来の都市型集合住宅のあり方について、環境・エネルギー・暮らしの面から実証・提案することを目的に、1993年10月に大阪ガスが建設した実験集合住宅です。竣工以来5～6年ごとにフェーズを区切り、それぞれの時代背景を踏まえて設定したテーマのもと、主に Daigas グループ社員とその家族が実際に居住しながら、計5フェーズ31年間の実証実験で200を超えるプロジェクトを実施し、建物全体の省エネ・省CO<sub>2</sub>、都市における緑地の復元と環境共生、多様なライフスタイルに応じた住まいのあり方などに関する数多くの提案や発表、商品化などを実施してきており、現在、第6フェーズの取り組みを進めています。2024年度には「グッドデザイン賞」を受賞するなど、時代に合わせてコンセプトを変えながら、次世代のエネルギーシステムを取り込み、暮らしの在り方を継続的に実証・提案している点が高く評価されています。

今回の504住戸の改修では、「和の居住文化の継承・発展」をテーマに、日本の伝統的な住まいで培われてきた次の3つのポイントに取り組み、和の居住文化を現代的に再構築することで心豊かな住生活と環境配慮の同時実現を目指しました。2026年7月からは、Daigas グループ社員とその家族が居住し、持続可能で心地よい住環境の実現に向けた検証を行います。

### 1. 四季を感じる住まいと暮らし

和の要素を活かし、季節やシーンごとに自在に変化を楽しめる住空間を設計しました。外とつながる風通しのよい大空間（続き間など）を確保したほか、季節やシーンに合わせて建具などの配置を自由に変えられます。

居住実験では、平時や来客時、季節ごとのしつらえやもてなしの変化、家具や建具、中間領域※<sup>1</sup>の使い方、上下足（靴を脱ぐ・履く場所）の設定、団らんや食事の仕方、緑地との関わりなどを調査・検証します。

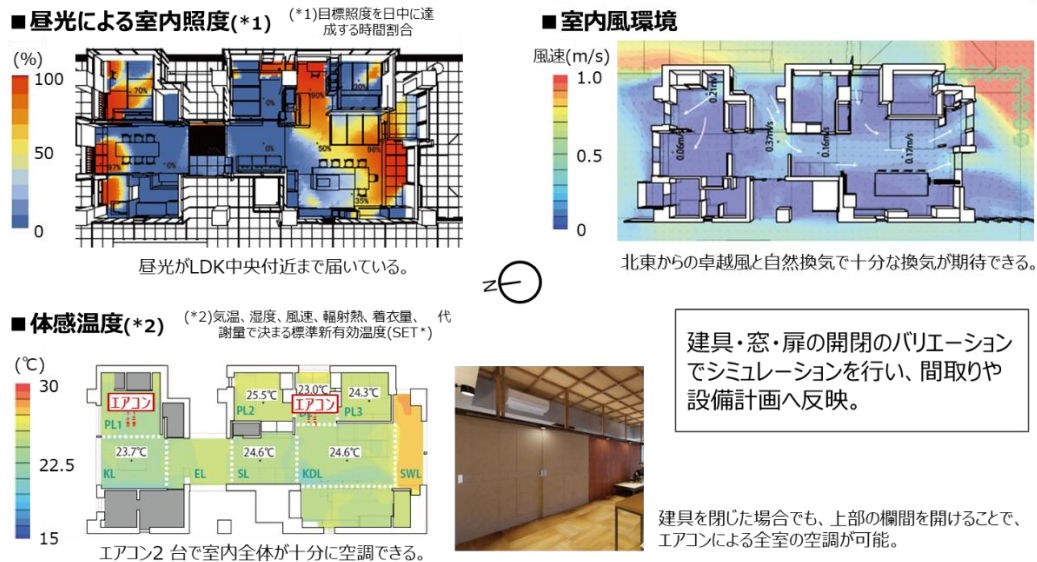


図提供：株式会社川島範久建築設計事務所

## 2. 自然の力を活かす「パッシブデザイン」※2

太陽光や風など、自然のエネルギーを上手に取り入れる設計で、快適さと省エネを両立しています。環境シミュレーションを活用し、日射取得・日射遮蔽・蓄熱・昼光利用・自然通風・断熱・気密といった自然の力を活かせる中間領域の計画や建具の使い方に反映しました。

居住実験では、環境条件に応じた空間や建具、設備の使い方を検証し、環境やエネルギーの計測、快適さや温熱感の評価などを行います。



図提供：株式会社川島範久建築設計事務所

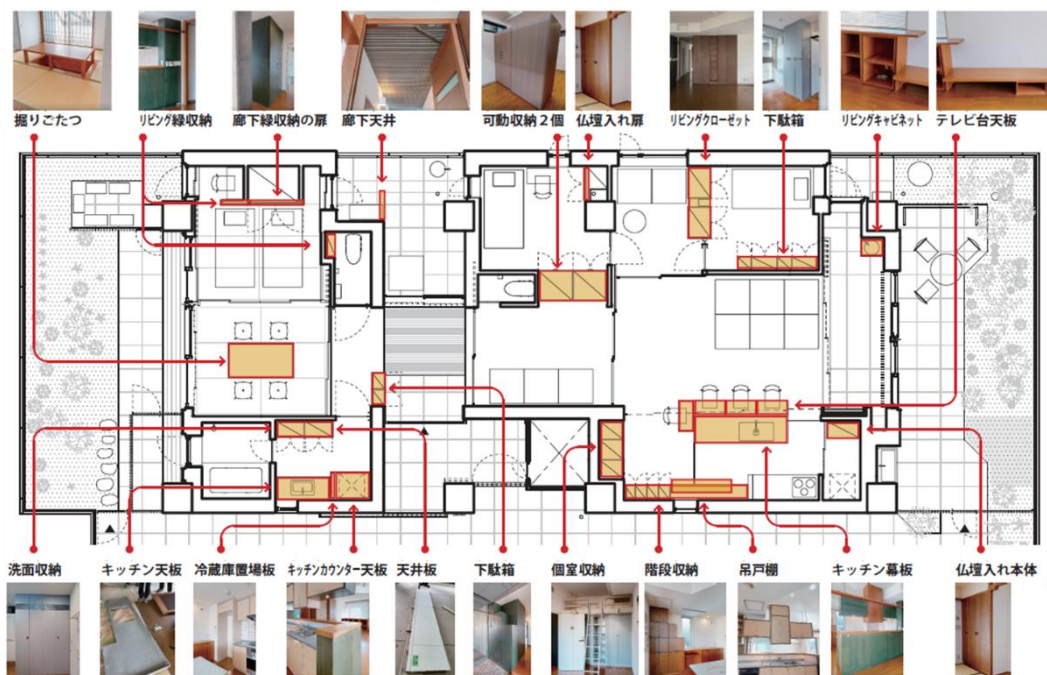
## 3. 資源を循環させる「サーキュラーデザイン」※3

「NEXT21」の既存住戸から回収した部材※4 や、近隣から調達した廃材などを活用して改修しました。

一般的な新規の建材を調達した場合と比較して、約8トンのCO<sub>2</sub>排出量を削減しています。※5

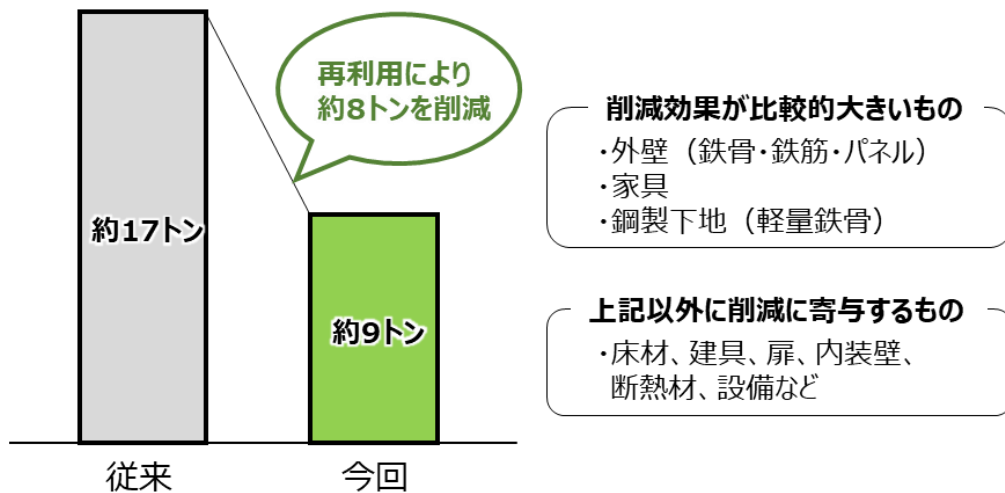
改修を通じて、部材回収のための丁寧な解体方法や作業量などの検証、部材の回収・利用に伴う環境負荷削減効果の評価などを行いました。

### ■ 回収部材を建具・家具・壁・床へ再利用 (下図は家具の例)



図提供：株式会社川島範久建築設計事務所

## ■ 今回の改修方法でのCO<sub>2</sub>削減効果 ※5



また、改修完了に合わせて、以下の日程で竣工報告会と特別見学会を開催します。

### ・竣工報告会

大阪：2026年2月27日（金）

東京：2026年3月5日（木）

### ・特別見学会

2026年3月9日（月）～6月26日（金）

詳細・お申込みは、公式サイトでご案内します。

[\(NEXT21 504 住戸「竣工報告会」及び「特別見学会」/大阪ガス実験集合住宅 NEXT21/大阪ガス\)](#)

Daigas グループは、今後もこれからの暮らし方の研究・提案を通じて、低・脱炭素社会の実現に貢献し、暮らしとビジネスの”さらなる進化”のお役に立つ企業グループを目指します。

- (※1) 外部と内部、公的空間と私的空間の中間に位置する領域。外部の自然や人に関わる場、ライフスタイルに応じた多様な活動の場となり、温熱環境のバッファゾーンとしても機能する。
- (※2) 太陽の熱や光、風などの自然のエネルギーを、機械に頼らず建物に取り入れる設計手法。
- (※3) サークュラーエコノミー(循環型経済)実現のため、設計・製造・消費・使用・廃棄・再資源化などあらゆる段階で循環へのシフトを促し、モノやエネルギーの消費を抑えながら新たな経済的価値の創出を目指すデザインの考え方。
- (※4) 再利用材料の一部として、床仕上げ材および床暖房の温水マットの再利用可能性を実験的に検証し、改修住宅において再利用している。
- (※5) 速報。詳細は報告会で発表(同時に HP に掲載)。



<504 住戸改修の設計・施工>

- インフィル設計  
川島 範久 氏 + 株式会社川島範久建築設計事務所
- クラディング設計  
株式会社集工舎建築都市デザイン研究所 荒川 裕樹 氏
- 設備設計  
関西ビジネスインフォメーション株式会社 KBI 計画・設計事務所
- 施工  
株式会社竹中工務店

<サーキュラーデザインに関する分析・評価>

- 以下のメンバーによる共同研究として実施しました。
- 東京大学 清家 剛 研究室
  - 関西学院大学 金 容善 研究室
  - 武蔵野大学 磯部 孝行 研究室
  - 株式会社川島範久建築設計事務所
  - 株式会社集工舎建築都市デザイン研究所
  - 大阪ガス株式会社

<実験集合住宅「NEXT21」の概要>

- 所在地 大阪市天王寺区清水谷町 6-16  
(最寄り駅：地下鉄谷町線谷町六丁目)
- 規模 地上 6 階、地下 1 階
- 建築面積 896 m<sup>2</sup>
- 延床面積 4,577 m<sup>2</sup>
- 住戸数 18 戸
- 竣工 1993 年 10 月



(NEXT21 の歩み)

時期	フェーズ	居住世帯数	テーマ
1994 年～	第 1 フェーズ	16	「ゆとりある住生活」と「省エネルギー・環境保全」の両立
2000 年～	第 2 フェーズ	16	地球環境と人の暮らしへの配慮
2007 年～	第 3 フェーズ	16	持続可能な都市居住を支える住まい・エネルギーシステム
2013 年～	第 4 フェーズ	15	環境にやさしい心豊かな暮らし
2020 年～	第 5 フェーズ	14	快適な住空間、万に備えた住まい
2025 年～	第 6 フェーズ	16※6	まちで集まって住む意味を再定義する

(※6) 2026 年 7 月予定